

第136号
2022.11 発行

総研大 NEWSLETTER



トピックス

- ◆ 2022 年度秋季学位記授与式
- ◆ 第 9 回 SOKENDAI 賞の表彰
- ◆ 2022 年度秋季入学式
- ◆ 2022 年度後学期フレッシュマンコース
- ◆ 天文学専攻 2022 年度天文学専攻入試ガイダンスを開催
- ◆ 天文学専攻国立天文台・総合研究大学院大学サマースチューデントプログラム
- ◆ 2022 年度第 2 回天文学専攻入試ガイダンスを開催
- ◆ 宇宙科学専攻「夏の体験入学」開催
- ◆ 高エネルギー加速器科学研究科 高専生による小型加速器製作を主体とした社会連携事業：Maker Faire Tokyo 2022
- ◆ 日本文学研究専攻 2022 年度入試説明会 オンラインで開催
- ◆ 総研大文化フォーラム 2022 を開催—国立民族学博物館でハイブリッド開催—
- ◆ 大学共同利用機関シンポジウム 2022 開催

受賞情報

プレスリリース情報

研究助成学生の研究紹介

メディア等出演・掲載情報

イベント情報

その他



2022 年度秋季学位記授与式

2022年9月28日（水）、葉山キャンパス講堂にて秋季学位記授与式が挙行されました。新型コロナウイルス感染症の影響で、オンラインでの開催が続いておりましたが、三年ぶりに葉山キャンパスで開催されました。

式典では学長より修了生一人一人に学位記が手渡しで授与されました。その後、学長からの式辞及び修了生代表からの謝辞が述べられ、課程博士26名、論文博士2名が総研大での博士号を手に、将来への新たな一歩を踏み出しました。



学長式辞

■学長式辞

<https://www.soken.ac.jp/news/7484/>

【広報社会連携係】



第9回 SOKENDAI 賞の表彰

2022年9月28日（水）、学位記授与式に引き続き、第9回 SOKENDAI 賞の表彰が行われました。

※SOKENDAI 賞は、本学の理念と目的に照らして、特段に顕彰するに相応しい研究活動を行い、その成果を優れた学位論文にまとめて課程を修了し、学位を取得した修了生を表彰する賞として2018年度に創設されました。

■詳細はこちら

<https://www.soken.ac.jp/news/7490/>



左から：周（鳥居）諭来さん、YOSPRAKOB ATIS さん、長谷川総研大 学長、Li Haoyu さん

第9回 SOKENDAI 賞受賞者

| 氏名 | 所属(申請時) | 学位論文題目 |
|----------------|----------------------------|---|
| 周（鳥居）諭来 | 物理科学研究科 機能分子科学専攻 | 光ピンセット配列中の冷却リユードベリ原子を用いた超高速量子ダイナミクスの研究 |
| YOSPRAKOB ATIS | 高エネルギー加速器科学研究科 素粒子原子核専攻 | 符号問題の解決に向けて～複素ランジュバン法、シングル法、テンソルネットワーク法 |
| Li Haoyu | 複合科学研究科 情報学専攻 | 雑音抑圧と明瞭性向上のためのニューラルネットワークによる音声強調の改善について |

10/4

2022 年度秋季入学式



2022年10月4日（火）、2022年度秋季入学式がオンラインにて実施されました。新入生33名一人ひとりのお名前を読み上げ歓迎しました。

■学長式辞

<https://www.soken.ac.jp/news/7494/>



【広報社会連携係】

10/4-7

2022 年度後学期フレッシュマンコース

2022年度後学期フレッシュマンコース(英語)を、10月4日（火）～7日（金）にオンラインにて開催し、24名の参加がありました。フレッシュマンコースは、「研究者を目指すすべての人が身につけるべき技術・考えるべき問題を学ぶ」「総研大ならではの知的広がりに触れる中で、異なる分野の人とのつながりを築く」ことを目的とし、主に新入生を対象として集中講義で実施しています。新型コロナウイルス禍以前は、葉山キャンパスにて合宿形式で開催していましたが、2020年度からオンラインに切り替えて開講しています。

初日の「アカデミア探訪」では、総研大における研究活動の多様性と共通性に触れ、大学院での研究生活のイメージを描くことを目的として、研究科長によるパネルディスカッションと、在学生（フレッシュマンコース学生企画委員）による研究紹介が行われました。2～3日目の「研究者と社会」では、研究者が遵守すべき倫理規範教育に加え、研究者が社会において望ましい役割を果たし研究者のコミュニティが健全に機能するために必要な倫理規範を洞察する能力の涵養を目的とし、講義とワークショップ形式での授業を行いました。そのうち「研究の社会史」はオンデマンド講義として実施しました。最



総研大フレッシュマンコース HP 画面

終日の「研究者のための“伝える技術”」では、英語での成果発表を想定したライティングとプレゼンテーションの講義を行いました。

授業後のアンケートでは、9割以上の参加者から、「FC全体について、研究者としてのこれからの生活に役立ちそう」という回答がありました。個別回答の中では、「様々なバックグラウンドを持つ、異なる研究分野の人達と知り合えた事が貴重だった」という声もあり、好評でした。講義後には、Gather Townを使ったオンライン懇親会も開催し、多くの参加者が交流を楽しんでいた様子でした。

【教育開発センター】



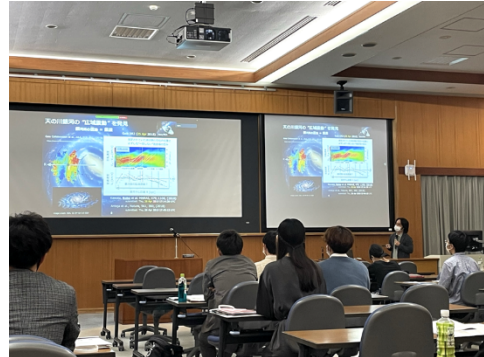
天文科学専攻 2022年度天文科学専攻入試ガイダンスを開催

2022年5月21日（土）、天文科学専攻による入試ガイダンスが開催されました。

様々なイベントがオンラインになって久しいですが、対面だからこそ伝わることもあるはずという思いから、対面とオンラインを組み合わせた形式で開催しました。移動による感染リスクを避けるために、対面で参加できるのは東京近郊在住の参加者のみに限定し、遠距離の参加者はオンラインとしました。当日は18名が国立天文台三鷹キャンパスから参加し、39名がオンラインで参加をしました。

ガイダンスは6名の講師による、国立天文台の最前線の研究紹介から始まりました。国立天文台の運用する様々な観測施設や観測装置を用いた、太陽から遠方宇宙までの観測的研究はもとより、理論研究や装置開発まで、とても幅広い内容が紹介されました。実際に国立天文台で行われている研究・開発を目の当たりにした参加者にとっては、入学後の研究テーマを考えるいい機会になったことでしょう。

午後はいよいよメインの入試ガイダンスです。入試日程が例年度とは異なるため、参加学生は真剣に聞き入っていて、入試に関する多くの質問も出しました。その後、現役の総研大生から院生生活について紹介があり、続いて、院生や教員と懇談をする時間が用意されました。院生との懇談は例年人気があり、入試勉強の方法から大学院生活に関することまで、多くの参加者が質問していました。最後に、先端技術センターのオンライン見学会があり、普段は



入試ガイダンスの様子

見ることができない開発の現場を案内してもらえました。

対面+オンラインの開催は技術的に難しい面もあり、参加者には迷惑をかけてしまった点があるかと思いますが、多くの方々のご協力のおかげで、大きなトラブルなく無事に開催できたと思います。本ガイダンスに参加された学生の皆さんと国立天文台で共に研究できる日が来ることを心待ちにしています。

田中 賢幸（総合研究大学院大学 物理科学研究科
天文科学専攻 准教授）

【天文科学専攻】



天文科学専攻 国立天文台・総合研究大学院大学サマーステュー デントプログラム

国立天文台・総合研究大学院大学サマーステューデントプログラム、いわゆる夏休み期間の体験研究が2022年8月1日（月）～9月1日（木）に実施されました。今年で12年目になります。このプログラムは、大学2年または3年に在学する学生が国立天文台に滞在し、受入教員の指導のもとで研究することができる制度です。天文学に興味を強く持ち、意欲のある大学学部生に体験研究の機会を設け

ることで、将来研究を志す人材を育成することを目的としています。実際、このプログラムの修了生が国立天文台の総研大に入学し、研究者として活躍している例もあります。

一昨年、昨年はCOVID-19のためにオンラインが中心でしたが、本年度はオンラインに加え、感染防止対策を十分にとることができる場合はオンサイトでの実施も可能としました。開催期間を8月の1



オンラインとオンサイトで開催した研究成果発表会

ヶ月間とし、その期間中、柔軟な指導ができるように工夫をしました。天文学の研究から装置開発まで非常に幅広い分野の教員がサマーチューデントプログラムに参画していただきました。教員には研究指導内容のシラバスを提出してもらい、それをもとにして学生が希望する研究を選ぶことができます。

今年は全国の様々な大学から、34名の学生の応募があり、21名の学生を選抜しました。英語の文

献や教科書から先行研究を理解するとともに、実際の観測データを用いた解析の実行、Python言語等を用いたプログラミングによる数値シミュレーション、観測装置開発に必要な光学部品の設計などと大学の講義ではあまり触れない内容を経験することができました。

今回、研究成果発表会は2022年9月1日(木)に開催し、オンラインと国立天文台三鷹キャンパスのハイブリッド形式で実施しました。限られた研究期間ながら完成度の高い発表が多く、英語による口頭発表も見られました。また、参加方法によらず学生からの活発な質問が見られ、盛況のうちに閉会しました。参加学生も受入教員にとっても有意義な夏休みとなりました。

【物理科学研究科、小嶋崇文(国立天文台先端技術センター)、伊王野大介(国立天文台TMTプロジェクト)、大村優美子(国立天文台研究推進課大学院係)】



2022年度第2回天文科学専攻入試ガイダンスを開催

2022年8月6日(土)に天文科学専攻による今年度2回目の入試ガイダンスが開催されました。全国的な新型コロナウイルス感染症感染拡大の最中であつたため、オンラインのみの開催となりました。当日は講演会、入試ガイダンス、懇談会というプログラム構成で、参加者は37名でした。



本間教授による講演

講演会では、天文科学専攻の教員に加えて、今春(2022年3月)に博士学位を取得して天文科学専攻を修了したばかりの若手研究者3名に講演していただきました。修了生の語る在学時の思い出や学生目線での具体的な研究活動の様子は、参加者にとって大学院生活をイメージすることに大いに役立ったのではないかと思います。

入試ガイダンスでは、日程、入学試験問題の出題傾向やその意図などについて、天文科学副専攻長から説明がありました。入学試験に関わる事項は多くの参加者にとっての主要な関心事であり、また今年度は例外的に日程が例年と異なる事情もあるため、参加者から多くの質問が寄せられていました。

教員や在学中の大学院生との懇談会は約2時間にわたって行われました。時間を一杯活用して、教員と大学院生に様々な質問をしていた参加者もいました。

終了後に行った参加者アンケートへの回答には、入学試験に関する十分な情報が得られた、勉強に対する大きなモチベーションにつながった、などの声が寄せられました。ガイダンス開催の目的はある程度達成されたのではないかと胸をなでおろしています。

今回のガイダンスも講演者の皆様と多くの関係者のサポートのおかげで無事開催できました。この場を借りてお礼申し上げます。

【中西 康一郎(総合研究大学院大学 物理科学研究科 天文科学専攻)】



宇宙科学専攻「夏の体験入学」開催

宇宙科学専攻では、8月24日（水）、25日（木）に「夏の体験入学」を実施しました。本プログラムは将来宇宙科学分野での大学院進学を考えている方に、宇宙科学専攻（来年度から宇宙科学コース）で行われている研究内容、教員の指導方針や、研究環境・生活環境をしっかりと理解し、進路選択の参考にしてもらうことを目的としています。

コロナ禍によりオンラインでの開催が続いていましたが、今年は3年ぶりに現地開催に踏み切りました。開催に際しては、参加定員を設定し、密を避け常時換気するなど、感染防止に万全の対策を行い、結果的に希望者全員が現地参加することができました。

プログラム1日目は、専攻長による専攻概要の説明、2名の教員による研究紹介講義を行った後、「分野別説明会」として、複数の教員と参加者によるグループセッションを行いました。

JAXA 宇宙科学研究所を基盤機関とする宇宙科学専攻は、教員の研究分野も宇宙物理学、太陽系科学などのいわゆる理学分野から、ロケットや宇宙機などのミッション実現のための技術を研究する工学分野まで、幅広い分野にわたっています。そこで、それぞれの分野ごとに教員や大学院生がどのような研究を行っているかを説明し、参加者が各分野を概観できるようにしました。



分野別説明会の様子



専攻概要説明を聞く参加者

また、プログラム終了後18時頃からは、教員抜きで在學生と参加者のみの懇談会を行い、大学院での研究生生活について本音で語る場を設けました。

2日目は、午前中は講義、及びキャンパス内の施設見学として、進学後にお世話になるであろう先端工作室、ロケットなどの大型の構造物の試験を行う設備、「はやぶさ2」の運用を行った管制室、の3施設を周り、午後は、「個別進学相談」として、参加者各自が希望する教員の研究室を直接訪問し、詳しい説明を受けました。

2日間で、のべ19名の参加がありましたが、実施後の参加者アンケートでは、半数以上が総研大への進学意欲がより高まったと回答しており、効果は高かったと考えます。特に研究室訪問で教員と直接話せたことは好評で、運営上は参加者・教員間の日程調整は大変な作業なのですが、報われた気持ちです。

今回、3年ぶりの現地開催を行って、コロナ禍を経た参加者たちが「生」の情報、対話を渴望している様を目の当たりにしました。今回の参加者と、数年後に総研大生として再会できることを願っています。

【山村一誠 宇宙科学専攻】

9/3-4

高エネルギー加速器科学研究科 高専生による小型加速器製作を主体とした社会連携事業：Maker Faire Tokyo 2022

2022年9月3日（土）・4日（日）、東京ビックサイトでMaker Faire Tokyo 2022が開催され、小山工業高等専門学校（以下、高専）の加速器製作チーム「アテナ」が出展しました。本学では、社会連携事業「高専生による小型加速器製作を主体とした社会連携事業」の一環として、高エネルギー加速器科学研究科加速器科学専攻の教員・学生を中心に、同チームの取り組みを支援しています。

【出展内容】

- ・ 出展者：小山高専加速器製作チーム「アテナ」
× 加速器アウトリーチ AxeLatoon
- ・ 概要：小型のサイクロトロン加速器を設計・製作。これまでの測定結果や設計などの説明と併せて、ヒステリシス測定などを行った電磁石や真空チェンバー、製作中の小型サイクロトロン加速器を展示。

※ 社会連携事業は、本学の研究や教育の成果を社会に還元することを目的とした事業で、地域と連携した教育事業を行っています。「高専生による小型加速器製作を主体とした社会連携事業」は、社会連携事業のひとつで、加速器制作を通じて、学術に対する広い興味の醸成や、多彩なキャリアパス形成に貢献することを目指しています。



小山高専加速器制作チーム「アテナ」の皆さん



総研大加速器科学専攻・大谷助教（左）
小山高専・長尾先生（右）

【詳細（出展の様子）こちら】

<https://www.soken.ac.jp/news/7480/>



【広報社会連携係】

9/23

日本文学研究専攻 2022年度入試説明会 オンラインで開催

9月23日（金・祝）、日本文学研究専攻では入試説明会をオンラインで開催しました。オンラインでの開催は今年が3回目となり、都内のみならず、東北、関西、四国からも他大学の修士課程に在籍する学生や、在職しながら博士課程への進学を検討中の社会人の参加がありました。

参加者は次年度から当専攻が総合研究大学院大学先端学術院先端学術専攻日本文学研究コースへ移行

するにあたっての変更点や国文学研究資料館を基盤機関とする当専攻ならではの研究環境、旅費や資料複写などの経済的な支援について説明を受けました。続く研究紹介では、藤實久美子教授、多田蔵人准教授、中西智子准教授が専門とする研究の一端を紹介し、参加者は文学のなかでも多岐にわたる研究分野を専門とする教授陣が揃う稀有な環境に興味を示しながら、膨大な原典資料や各種データベースを

活用した研究の進め方に熱心に耳を傾けていました。

教員との個別相談では、今後取り組むべき課題や長期的な研究計画について質問が寄せられ、教員からは博士課程進学後、さらにその先の研究生生活の見通しを持つことの重要性を交えた助言を受けました。また、在学生3名が加わり、参加者と在学生のみでの懇談の機会も設け、実際の学生生活についてざっくばらんに話していただきました。

参加者の皆様には、研究環境や学生生活など、進学後のイメージをより明確なものにしていただけたことと思います。対面での開催は叶いませんでしたが、遠方の方にも多くご参加いただいたのはオンライン開催のメリットだったと考えています。是非、実際に国文学研究資料館へ足を運んで研究環境を肌で感じていただければと思います。

【藤原道長家の文学圏】

藤原道長・源倫子夫妻
↓ 継・筆・書
藤原彰子 (一条天皇中宮/後一条天皇・後朱雀天皇生母) 後宮サロシ

紫式部
『源氏物語』
『紫式部日記』 『紫式部集』

和泉式部
『和泉式部日記(物語)』
『和泉式部集』

赤染衛門
『歌选物語』
『赤染衛門集』

作品の『作り手』達
(その他女房達)
『栄花物語』(証篇)
『御堂関白集』
(『枕草子』?)

注文・執筆・相談・宣伝・流布(書写) etc... 一人の『作者』
(発表)

『『源氏物語』の成立圏—藤原道長と紫式部と「作り手」の人々—』(16th International Conference of the European Association for Japanese Studies, 2021)

令和4年6月より総研大担当教員となった
中西智子准教授による研究紹介

【日本文学研究専攻】



総研大文化フォーラム 2022 を開催 — 国立民族学博物館でハイブリッド開催 —

10月1日(土)に、国立民族学博物館を会場に総研大文化フォーラム 2022 が開催されました。昨年と同様、会場・オンライン併用のハイブリッド開催となりました。

総研大文化フォーラムは、文化科学研究科が平成28(2016)年から主催してきた事業ですが、今年度が最後の開催となりました。文化科学研究科の過去を振り返るのではなく、未来を考えるという趣旨のもと、「文化科学研究の行方」をテーマに各専攻の学生が研究発表を行いました。

文化フォーラムの冒頭を飾ったのは、岸上伸啓教授(国立民族学博物館副館長)による、「人間文化研究の行方—文化人類学における課題と方法の新展開を中心に」と題した基調講演でした。その後、1部と2部に分かれて文化科学研究科の学生8名による研究発表が行われました。新型コロナウイルス感染症の拡大や国際情勢の悪化など、ここ数年で周囲の環境が一変し、各地で自由にフィールドワークを

行うことは困難な状況にあります。オンライン上でヒアリングしデータを収集するなど状況に合わせて研究を進めた学生もいました。

質疑応答の時間には分野の異なる理系教員や他大学の学

生、オンライン聴講者からも積極的に質問がなされ、会場は盛り上がりを見せました。

本文化フォーラムのような全学事業は専門分野や所属機関を問わず参加できるため、参加した学生たちには、普段は聞くことのない他機関の学生の活動を知る良い機会となりました。



総研大文化フォーラムの閉会式で総括をする永田副学長

【学務支援係】



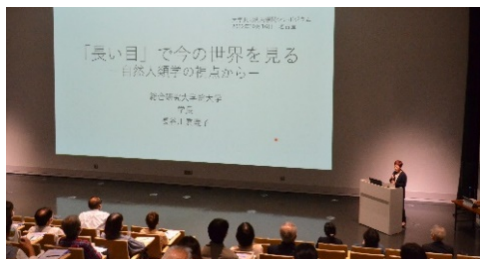
大学共同利用機関シンポジウム 2022 開催



10月16日(日)、名古屋市科学館 生命館地下2階サイエンスホールにて、『大学共同利用機関シンポジウム～科学の時代。見えてきた未来～』が、3年ぶりとなる会場での開催とオンラインによるハイブリッド形式により開催されました。大学共同利用機関シンポジウムは、大学共同利用機関及び宇宙科学研究所、総合研究大学院大学が一堂に会し、最先端の研究成果を広く一般に紹介するイベントです。

今回は、3年ぶりに会場に参加者を迎え、「午前の部：宇宙について」「午後の部：生命について」をテーマに10名の講演者により語りました。

今回は、3年ぶりに会場に参加者を迎え、「午前の部：宇宙について」「午後の部：生命について」をテーマに10名の講演者により語りました。



長谷川眞理子学長による講演



総研大展示ポスタ

主催者の発表によると、会場での参加者数は、午前午後それぞれ90名で、オンラインライブでの視聴者数は、YouTubeは約2,000名超、ニコニコ生放送では約37,000名でした。

以下よりアーカイブが配信されておりますので、是非ご視聴ください。

【YouTube】

<https://www.youtube.com/watch?v=s1zP06bfarE>



【ニコニコ生放送】

<https://live.nicovideo.jp/watch/lv338321688>



【広報社会連携係】

Awards

■ 第28回小型魚類研究会にて、遺伝学専攻学生 Chung Han Wang さんがポスター賞を、松田光司研究員が口頭発表賞を受賞

2022年9月1日～2日、大阪の国立循環器病研究センターにて行われた、第28回小型魚類研究会において、本学学生のChung Han Wangさん(D2)がポスター賞を、システム神経科学研究所の松田光司研究員が口頭発表賞をそれぞれ受賞しました。

【受賞概要】

- Chung Han Wang さんの発表のタイトル
Molecular signature of optic flow responsive neurons identified by a technique combining functional labeling and single cell RNA-seq

- 松田光司 研究員の受賞ポスタータイトル
Intersectional genetics for investigating putative pretectal hub neurons in the optic flow processing circuit

【詳細はこちら】

https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2022/09/information_ja/ha_20220915.html



■ 遺伝学専攻学生 飯田史織 さんが 第 62 回生物物理若手の会・夏の学校 現代化学賞を受賞

2022 年 9 月 1 日～2 日に実施された第 62 回生物物理若手の会・夏の学校において、大学院生の飯田史織さん (D3) が現代化学賞を受賞しました。

【詳細はこちら】
<http://bpwakate.net/summer2022/>



■ 機能分子科学専攻 古池美彦助教、構造分子科学専攻 米田勇祐助教の 2 名が日本生物物理学会 若手奨励賞を受賞

機能分子科学専攻の古池美彦助教、構造分子科学専攻の米田勇祐助教の 2 名が、日本生物物理学会第 18 回若手奨励賞を受賞しました。

・ 米田勇祐 助教
励起子電荷分離混成が酸素発生型光合成を駆動する

【発表研究題目】

・ 古池美彦 助教
原子分解能でみた概日時計の朝夕昼夜

【詳細はこちら】
<https://www.ims.ac.jp/news/2022/10/1003.html>



■ 機能分子科学専攻 古池美彦助教が SPRUC 2022 Young Scientist Award を受賞

機能分子科学専攻の古池美彦助教が SPRUC 2022 Young Scientist Award を受賞しました。

【詳細はこちら】
https://www.ims.ac.jp/news/2022/10/1011_2.html

【受賞テーマ】

概日リズムを生み出す時計タンパク質の精密制御機構の解明



■ 物質構造科学専攻学生 RAHMAN, MD. Khalidur さんが第 73 回コロイドおよび界面化学討論会で若手口頭講演賞を受賞

物質構造科学専攻の学生 RAHMAN, MD. Khalidur さんが第 73 回コロイドおよび界面化学討論会で若手口頭講演賞を受賞しました。

ポスター賞、若手口頭講演賞ページ
<https://confit.atlas.jp/guide/event/colloid2022/static/award>



【詳細はこちら】

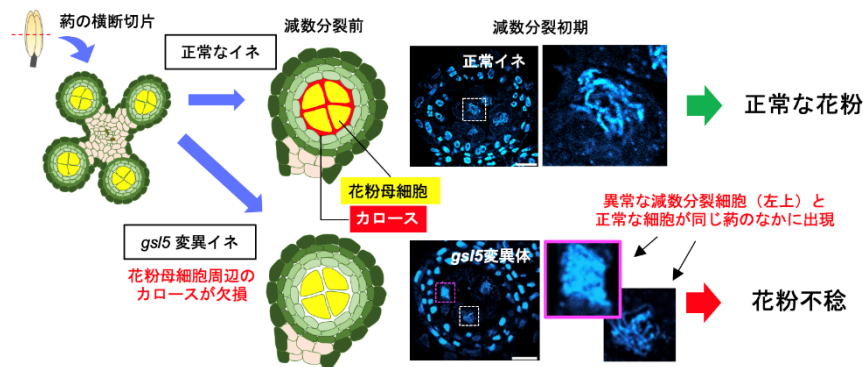
第 73 回コロイドおよび界面化学討論会 HP
<https://confit.atlas.jp/guide/event/colloid2022/top>



Press Release

2022.10.26

植物生殖研究における長年の謎を解明！～カロースによる減数分裂の開始制御～



【研究概要】

植物の花粉は、雄しべ（葯（やく））の中で花粉母細胞が減数分裂をすることで作られます。減数分裂の過程は遺伝的に厳密に制御されていますが、特に花粉の形成に必要な減数分裂の開始に関わる分子メカニズムは未解明でした。本研究のヒントとなったのは、減数分裂開始直前の葯に一時的に蓄積する「カロース」と呼ばれる植物特有の高分子多糖類でした。カロースの葯への蓄積は、減数分裂開始の指標として古くから知られていましたが、減数分裂には関与せず、減数分裂後の花粉形成のみに必要と考えられてきました。

情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 野々村賢一准教授、ソマシェカー ハーシャ総合研究大学院大学 大学院生らの研究グループは、葯で高発現するカロースの合成酵素 GSL5 の機能が欠損するイネ変異体の解析から、GSL5 が減数分裂期の葯におけるカロース合成の主要酵素であり、GSL5 によるカロース合成が葯における減数分裂の「適切な開始時期と進行」に必須であることを証明しました。

本研究によって、長年の謎であった葯へのカロースの高蓄積が、減数分裂の開始と進行の制御に必要であることが明らかになりました。今後は GSL5 および GSL5 を制御する遺伝機構の解析を進めます。

カロースの機能は減数分裂に留まらず、植物の生育過程の全般における環境ストレスへの応答と密接に関係することが知られています。したがって、減数分裂とその後の生殖過程における GSL5 機能の更なる解析は、地球規模の環境変動で懸念される穀物の収量低下に解決の糸口を与える研究への発展が期待できます。

【論文情報】

- 掲載誌：*Plant Physiology*
- 論文タイトル：Rice GLUCAN SYNTHASE-LIKE5 promotes anther callose deposition to maintain meiosis initiation and progression. (イネの GLUCAN SYNTHASE-LIKE5 は減数分裂開始と進行を維持するために葯におけるカロースの蓄積を促進する。)
- 著者：H. Somashekar (総合研究大学院大学 大学院生), M. Mimura (国立遺伝学研究所博士研究員 (現：東京大学大学院・助教)), K. Tsuda (国立遺伝学研究所・助教), K. Nonomura (国立遺伝学研究所・准教授)

【詳細はこちら】

<https://www.soken.ac.jp/news/7512/>



研究助成学生の研究紹介

SOKENDAI 研究派遣プログラム、研究論文助成事業に採択された学生の研究概要を順次本学ホームページに紹介しています。

<https://www.soken.ac.jp/education/rintro/ri-grantedstd/>



新規掲載情報

| 事業 | 専攻・氏名 | タイトル |
|--------|----------------------------|---|
| 研究論文助成 | 天文学専攻 伊藤 慧 | 多波長観測で明らかになった星形成活動の終わりとはブラックホールの活動 |
| 研究論文助成 | 遺伝学専攻 YESBOLATOVA, Aiya | How do genes move in living cells? |
| 研究論文助成 | 極地学専攻 徳永 壮真 | サメ・エイ類の妊娠期間はどんな要因で決まるのか？ |
| 研究論文助成 | 情報学専攻 NGUYEN Hong Huy | Master Face Attacks on Face Recognition Systems |

Media

■ 読売新聞

【記事タイトル】エチオピア侵攻伝える 220 枚

【出演】地域文化科学専攻 川瀬慈 准教授

【日時】2022 年 8 月 4 日（木）

■ 神戸新聞

【記事タイトル】令和版風土記作り

【出演】比較文化科学専攻 廣瀬浩二郎 准教授

【日時】2022 年 8 月 30 日（火）

（参考）<https://www.kobe-np.co.jp/rentoku/zuisou/P20220511MS20143.shtml>



■ 週刊読書人

【記事タイトル】「憑依と抵抗」について

【掲載】地域文化科学専攻 島村一平 准教授

【日時】2022 年 9 月 2 日（金）

■ 読売新聞

【記事タイトル】「編集委員鶴飼哲夫のあ言えはこう聞く」というページに掲載 触常者 世界をさわる

【出演】比較文化科学専攻 廣瀬浩二郎 准教授

【日時】2022 年 9 月 27 日（火）

■ 静岡新聞

【記事タイトル】疑問アップデート社会

【掲載】総合研究大学院大学 長谷川真理子 学長

【日時】2022年10月2日（日）

■ 日本経済新聞

【記事タイトル】UPDATE 知の現場 ロケット打ち上げ参加も

【出演】宇宙科学専攻 堂谷忠靖 教授、森治 教授、山村一誠 准教授
伊藤大智 学生

【日時】2022年10月5日（水）

（参考）UPDATE 知の現場

<https://www.nikkei.com/article/DGKKZO64865910U2A001C2TCN000/>



■ NHK

【番組タイトル】「きん5時」、「ほっと関西」

特別展「Homō loquēns 『しゃべるヒト』～ことばの不思議を科学する～」の紹介

【出演】比較文化科学専攻 菊澤律子 教授

【日時】2022年10月7日（火）

（参考）<https://www.nhk.jp/p/ts/BX438K5R33/>

<https://www.nhk.jp/p/osaka-hot-kansai/ts/3GK4J7ZN6X/>



Event Calendar

| 日程 | イベント名称 | 実施専攻・基盤機関 |
|--------------------|--|-----------|
| 2022/12/21 | SOKENDAI Asian Winter School https://registration.ims.ac.jp/aws22/ | 分子科学研究所 |
| 2022/9/1— 11/23 | Homō loquēns 「しゃべるヒト」～ことばの不思議を科学する～ https://www.minpaku.ac.jp/ai1ec_event/19085 | 国立民族学博物館 |
| 2022/9/8- 13 | 海のくらしアート展——モノからみる東南アジアとオセアニア https://www.minpaku.ac.jp/ai1ec_event/34228 | 国立民族学博物館 |
| 2022/11/11 | 「民族」再考——日本と台湾から https://www.minpaku.ac.jp/ai1ec_event/35746 | 国立民族学博物館 |

※原則として、総研大としての行事のみを掲載します。

その他

■第 63 次南極地域観測隊（越冬隊） 隊員からのメッセージ（2022/10/24）

レポート作成：馬場 健太郎（総合研究大学院大学事務局職員、庶務・情報発信）

掲載協力：国立極地研究所

こんにちは。第 63 次南極地域観測隊に参加中の事務局職員の馬場です。

日本では次第に秋が深まっている頃だと思えますが、北半球と季節が逆の南極では日ごとに太陽が出ている時間が長くなり、冬が終わって夏が次第に近づいてくるのを実感します。

9月から10月初旬にかけて晴れて放射冷却が強まり最低気温がマイナス30度を下回る日もありますが、そのような天気の良いときは、ハロや幻日といった光学現象を見ることができた日もありました。



ハロ（2022年9月22日）



見納めを迎えたオーロラ（2022年10月1日）

その一方、短い周期で低気圧が近づいてブリザードとなることが多く、たびたび外出禁止令や外出注意令が発令されました。日本に台風が近づくと気温と湿度が上昇するように、昭和基地に低気圧が近づくと気温が高くなります。10月下旬にブリザードが来た際は最高気温がマイナス2～3度となる日もあり、寒さに慣れた越冬隊員にとっては暑く感じることもありました。

10月21日には、オーロラの光学観測を行うために行われていた灯火管制が終了し、冬の間我々の目を楽しませてくれたオーロラが見納めとなりまし

た。11月22日からは太陽の沈まない白夜が始まります。

夏が近づくにつれ、昭和基地では64次隊の受け入れ準備が本格化してきました。南極大陸の内陸部にあるドームふじ基地に最古級のアイスコアを掘削するための拠点を建設するため、64次隊の先遣隊が間もなく南アフリカのケープタンから空路で昭和基地入りし、現地での作業期間50日を含む往復100日に及ぶ内陸旅行に出発する予定で、63次越冬隊からは6名が参加します。その内陸旅行の準備として、雪上車の整備や、燃料や物資を橇に積み込む作業のほか、昭和基地沖の海氷上の滑走路整備などが9月から10月にかけて行われました。



橇への物資積み込み
（2022年10月1日）

また、ブリザードが来るたびに基地内の除雪や、生活に必要な水を賄っている130kL水槽の水面に貼った氷を割る作業を行っています。



130kL水槽の水面に貼った氷を割る作業
（2022年10月6日）

段々と慌ただしさを増してきた昭和基地ですが、野外行動訓練のため、9月に西オングル島にある1次隊の上陸地点を徒歩で再訪しました。1次隊の上陸式典の写真を参考に、式典を執り行った場所にある岩を雪の中から掘り出そうと試みましたが、結局発見には至りませんでした。このとき、凍結した西オングル島の大池の上を歩いて通過しましたが、湖底から吹き上がった気泡が透明な氷の中に閉じ込められた様子を見ることができました。そのほかに、10月には、5月に行われたそうめん流しに参加できなかった者を対象に昭和基地近くの氷山でそうめん流しを行いました。



凍結した西オングル島の大池 (2022年9月18日)



氷山でのそうめん流し (2022年10月8日)

また、越冬隊ではいくつかの生活係が置かれ、外部から閉ざされた昭和基地での越冬生活に潤いを与えるために活動しています。例えば、ブリザードで

屋外の作業ができないときは、喫茶系のメンバーがコーヒー豆を焙煎してコーヒーを入れてくれたり、パン・麺系のメンバーでパン作りに挑戦したりしました。また、ライギョダマシという魚の生態調査のため、漁協系のメンバーが海氷上に仕掛けを設置し、ライギョダマシがかかっているか時々確認に出かけています。



パン作りに挑戦するパン・麺系のメンバー
(2022年10月5日)



ライギョダマシの仕掛けを確認する
漁協系のメンバー (2022年10月11日)

11月10日には、2週間の隔離を経て横須賀で「しらせ」に乗船して日本を出てから1年が経ちます。12月には「しらせ」に乗った64次隊の本隊が昭和基地に到着します。来年2月1日に昭和基地の管理・運営を64次越冬隊に無事に引き継げるよう、残りの日々を過ごしていきたいと思ひます。

■ 編集後記

朝夕の涼しさに季節の変わり目を感じる頃、コロナ感染症拡大のために対面での開催が見送られてきた学位記授与式が、3年ぶりに修了生が集まり開催されました。学長から修了生一人一人に学位記が手渡され厳かに式が進行しました。久しく見ることの

なかった光景に、感慨深いものを感じました。このような光景が普通であった日常が戻ってくることを、切に願います。

(広報社会連携係 TS)

総研大基金によるご支援について

本学では、経済的に困難を抱える学生の支援等を推進するため、総研大基金を設立しています。ぜひ皆様のご支援をお願いいたします。

【詳細はこちら】

<https://www.soken.ac.jp/donation/>



広報社会連携係では、メディアを通じて総研大の研究成果を広く社会に発信しています。特に、総研大在学生在が筆頭著者として研究論文を出版する際、プレスリリースを行う場合は、総研大と所属専攻(基盤機関)との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携係までご連絡ください。

各専攻の学生・担当教員の「メディア出演」、「受賞・表彰」および「地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動等の社会連携・貢献活動」についてニュースレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、各種情報を是非お寄せください。

研究論文を投稿する場合や、メディア等に出演される場合は、「総合研究大学院大学」と表記いただきますよう、総研大の知名度向上にご協力をお願いいたします。

2022年11月発行

編集・発行

国立大学法人 総合研究大学院大学

総合企画課広報社会連携係

神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)

TEL 046-858-1629

FAX 046-858-1648

Email kouhou1(at)ml.soken.ac.jp

※(at)は@に変換してください。

©2022 SOKENDAI